成恵 HOSPITAL SPOT

成恵 HOSPITAL SPOT おかげさまで第100号

2025 春　第100号

今号で 100号目

埼玉成恵会病院

ご愛読いただいています当院の広報誌『成恵HOSPITAL SPOT』が、2025年4月、発行第100号となりました！これからも地域の皆様に「信頼される病院」を目指し、病院活動の情報や健康に役立つ話題を提供して参ります。

『成恵HOSPITAL SPOT』の創刊号は、1997年。今号に至る100冊の誌面には、当院の歴史や出来事、理念、思いなどがたくさん詰まっていますので、少しご紹介しましょう。

当院の始まりは、長谷川芳男初代院長が、1969年に東松山市箭弓町に開設した東松山整形外科医院です。1977年、救急施設やICUなども取り入れた96床の総合外科系病院として、現在の地に新築移転し、妻の長谷川文子事務局長とともに、**地域医療の発展に尽くしてきました。**何度かの増改築を経た現在は170床の病院となり、**比企医療圏の中核病院の1つ**として、日夜、地域に根ざした診療を行っています。

新病棟竣工に際しては、**地域の中で必要とされる病院、信頼される最良の医療を提供できる病院を作るため、オール個室など**の初代院長のアイデアが随所に盛り込まれました。そして、

過去にはテーマを絞って広報誌で啓発活動も行いました

成恵 HOSPITAL SPOT
おかげさまで

当院の特色ある施設としては、**1997年に開設した「埼玉手の外科研究所（現・埼玉手外科研究所）」があります。**整形外科、形成外科、神経外科の3要素からなる独立した外科部門として、日本で2番目にできた施設で、初代所長に東京慈恵会医科大学形成外科教授だった故・児島忠雄先生をお迎えし、以来、手に関する全てを対象として治療や研究を行っています。

「HAND GALLERY」（児島コレクション）には、手をモチーフにした世界の美術品や装身具・日用品など約250点が展示されており、手によって築かれてきたヒトの文明や文化に思いをいたすことができます。

診療面ばかりでなく、2005年には介護部門をリニューアルして**「成恵ケアセンター」をオープン**、訪問看護、在宅介護の強化に加え、通所リハビリではパワーリハビリテーションを取り入れ、成果を上げています。

ラジオの長寿番組に招かれたり、『日経ビジネス』誌の「よい病院ランキング」の上位に選ばれたりしました。さらに2003年には日本医療機能評価機構認定病院に認定され、高い評価を得ました。

また**2006年には、健康管理センターの設備拡充を行いました。**新館最上階にあって見晴らしがよく、武蔵野の山々を眺めながら、リラックスして検査を受けたり、検査後のお食事を楽しんだりしていただいています。**2012年にはリハビリ棟が完成しました。**整形外科外来の診療ブースとして利用するほか、天井が高くて開放的な空間で多目的ホールとしても利用できるので、災害医療シミュレーションなども行っています。

病院経営の面では、2006年2月に当時の長谷川岳弘副院長が院長を引き継ぎました（現在は理事長）。患者さんのニーズに合わせた改革や新プロジェクトの遂行、また災害シミュレーションや災害医療活動訓練参加などにも力を入れ、**地域における「良い医療」をさらに追求しています。また、職員の知識向上や意欲向上のために、様々な研修会や学術研究会、活動発表会、講習会、講演会などを行っており**、各科の職員が積極的に参加して研鑽（けんさん）を積んでいます。学術研究会では優秀演題の表彰を行っていることも、モチベーションアップにつながっています。

講演会では、院内医師ばかりでなく、国家公務員共済連合会虎の門病院などから著名な先生をお招きして講演していただくこともあります。

一方で、音楽にも造詣が深い初代芳

大規模災害に対応できるよう日々訓練を行っています

院内研修会なども定期的に開催

成恵 HOSPITAL SPOT

おかげさまで100号

埼玉成恵会病院のシンボルマークについて

病院のシンボルマークは、「Science」「Specialty」「Speed」「Service」の4つのSと、世界共通のレッドクロスマークを組み合わせてデザインされました。ここには、それぞれの立場で協力し合い輪になって病院の使命を遂行していく、という初代院長の強い思いが込められています。またマークのカラー「あおみどり」には、成長していくイメージと、「英知」の意味があります。

男会長は、東松山成恵フェニックス管弦楽団を立ち上げました。岳弘理事長も続々と成恵会音楽部や成恵会オペラクラブなどを発足させ、自らもソリストとしてピアノ演奏や独唱など、数々の舞台に立っています。

２０１４年には成恵会音楽部として初めての「チャリティーコンサート」を開催しました。以来、ほぼ毎年開催していますが、「ＮＰＯ法人ミャンマーファミリー・クリニックと菜園の会」の医師で、院長の同級生でもある名知仁子先生の講演、成恵会音楽部の演奏、オペラコンサートなどを行い、毎回大盛況です。募金でお預かりしたお金は、ミャンマーでの医療支援や、被災地での活動に寄付しています。

＊＊＊

ここまでの１００冊には、ご紹介したい記事が他にもたくさんありますが、誌面スペースには限りがあり、ごく一部しか振り返ることはできません。しかし1冊ずつ手に取って、積み重ねてきた日々を振り返ると、感慨深いものがあります。これからも職員一同、育成と恵愛の精神を持って、さらに信頼される病院を目指してまいります。

音楽活動を通じてチャリティー活動にも力をいれています

院内ではクラブ活動も盛んです

成恵HOSPITAL SPOT（2025年春号）第100号 発行：埼玉成恵会病院 発行人：広報委員長 山田達也

消化器病センター開設のご案内

埼玉成恵会病院ではこの度消化器病センターを開設いたしました。
日本で１年間に新たに大腸がんと診断された人数は、2018年では男性は約９万人、女性は約７万人でした。臓器別にみると、大腸がんは男性では３番目に、女性では２番目に多いがんです。手術件数は年々増加傾向にあります。

早期発見と再発防止

日本人の死因で、もっとも多い病気はがんです。
その中でも大腸がんは、臓器別の死亡者数で上位に入ります。

大腸がんは、早期の段階で治療を行えば高い確率で、完全に治すこと（治癒）ができます。

大腸がんは早期の段階では、
症状を自覚することがほとんどありません。

早期の発見には、40歳以上の方は
大腸内視鏡検査を受けることをお勧めします。

早期退院、早期社会復帰

当院では 消化器病センター顧問
宇田川晴司先生（虎の門病院分院長）
消化器病センター顧問
上野正紀先生（虎の門病院副院長）ご指導の下、

虎の門病院医師と協力し、
大腸がんに対する腹腔鏡手術を開始しました。

腹腔鏡手術は術後の回復が早く、
早期退院、早期社会復帰が可能です。

スタッフの紹介

虎の門病院と病診連携の関係

宇田川晴司先生
週２回
◆埼玉成恵会病院
消化器病センター顧問
◆虎の門病院　分院長

上野正紀先生
第４土曜日
◆埼玉成恵会病院　副院長、院長補佐
消化器病センター顧問
◆虎の門病院　副院長
消化器外科（上部消化管）部長

花岡 裕先生
◆虎の門病院
下部消化管外科医長
担当 大腸癌手術担当

春田周宇介先生
◆虎の門病院
上部消化管外科医長
担当 胃癌手術

井利雅信先生 常勤
火曜日・金曜午前
◆消化器病センター長
虎の門病院
担当 消化器内視鏡、肝・胆・膵、腹部超音波

古謝亜紀子先生 常勤
水曜午前・木曜午前（初診別対応あり）
◆内視鏡センター長
専門 消化器内科、内視鏡

清水広久先生 常勤
月曜～金曜午前（初診別対応あり）
◆外科部長
専門 消化器外科、一般外科

大楽勝了先生 非常勤
土曜日
専門 消化器内科

診察日の詳細はお問い合わせください

手術症例は、**胃がん・大腸がん**共に虎の門病院の
経験豊富な**医長先生**が清水先生と執刀します。（内視鏡手術）

埼玉成恵会病院

交通
電車　東武東上線　「森林公園駅」下車徒歩6～7分
※池袋駅から森林公園駅まで約1時間
自動車　関越自動車道　東松山インターより3分

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構

成恵会　検索

〒355-0072　埼玉県東松山市石橋1721　TEL：0493-23-1221　ホームページ：seikei.or.jp